Quarterly Journal of Japan Science Foundation / Science Museum

JSF Today

No.178/Autumn 2025

特集＝大盛況！ 館の“夏フェス”レポート

公益財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

JSF TODAY
NO.178/AUTUMN 2025

目 次

● 特 集 3
大盛況！館の“夏フェス”レポート
熱気に満ちた科学技術館の夏イベントを総まとめ！

〈大集結! 科学の夏まつり〉 4
驚きと感動に満ちた 2 日間に 16,675 人が来場!
青少年のための科学の祭典 2025 全国大会

理数系の中高校生たちが集合！ 友情を育んだ交流会
「日本学生科学賞」入賞・入選者たちと野依良治館長との懇談会
＆ スーパーサイエンスハイスクール交流会

新設「学生部門」で 2 作品が初受賞!
「第 66 回 科学技術映像祭」入選作品が決定、表彰式を開催

〈夏の特別イベント〉 8
10 年ぶりに科学技術館に帰ってきた！ 科学捜査展 returns
夏休み特別展「科学捜査展 returns」

三菱商事「MC SCIENCE SCHOOL」×科学技術館 特別プログラム
児童養護施設のみんなで一緒にとびきり楽しい科学体験！

〈出展者と共に〉 10
雰囲気は参加者と共に作られる
「製薬協 クスリウム研究室 2025 秋」

身近な自転車と、さらに親しくなる機会に
自転車広場「夏休み自転車子ども相談」「自転車科学教室」他

鉄のいろんなこと、遊びながら学んだよ
「鉄の丸公園 1 丁目クイズラリー」「遊ぼ〜触ろ〜学ぼ〜 鉄学フェス!」

銅の魅力を伝える体験がいっぱい!
『『銅の日』イベント　銅のすごい特徴を体験してみよう!」

応募者殺到！ 石炭に楽しく触れられる実験教室
クリーン・コール・デー2025年度記念行事「夏休み子ども石炭実験教室」

身近にあるけどナゾだらけのモーターを分解!
実験教室「モーターのしくみ ~ モーターが回るナゾにせまる !~」

〈外部専門家と共に〉 15
「水の週間」に、みんなで考える水の大切さ
「水のワークショップ・展示会」

モールス信号を打って学ぶ! 無線通信の歴史
「科学技術館でモールス体験 ~ モールス信号「SOS」を打ってみよう !~」

作ったオルゴールを福祉施設に寄贈。贈る側も心豊かに
楽しい工作教室「心をいやすオルゴールを作ろう」

さまざまな専門分野の先生が、科学の扉を開く
この夏の「サイエンス友の会 科学技術館ファミリー」の教室から

〈夏思い出づくり〉 18
科学技術館で楽しい思い出いっぱい作ったよ!
「夏ダー! なので海の科学教室」「SDGs サンゴ工作〜サンゴについて
楽しく学ぶワークショップ」「キャンドル・オルゴール工作」

● REPORT 1 19
「第36回国際生物学オリンピック」「日本生物学オリンピック2025」
生物学を志す若者たちの絆が未来を創る！

● REPORT 2 20
急激な時代の変化の中で、子どもの“生きる力”をどう育てる?
青学大・原晋監督も登壇！ 特別教育講演会「子ども主導。
『後悔しない進路選択』とは?」開催

● TOPICS 22
回る？外せる？動き出す？ 不思議な世界を体感しよう！
新展示「くるくるコーン Big」、カプセルトイ「不可能パズル」、
復活展示「ゾートロープ」

この秋にリニューアル! 当財団・当館が展示総監修を担当しました
栃木県子ども総合科学館“コジマ子どもサイエンスパーク”
リニューアルオープン!

● JSF 掲示板 23

● なにこれ!? 科学技術館事典 24

［表紙解説］

◇毎年、7月の最終週が近づくと、科学技術館の入口には特設の看板ゲートが設けられます。「青少年のための科学の祭典」全国大会の幕開けを告げる、夏の風物詩ともいえるものです。

◇この大会には、全国各地から“実験名人”たちが集い、それぞれ趣向を凝らした実験や工作を披露してくれます。大会当日の朝には、開場を待ちわびたお客様たちが、科学技術館の玄関ホールから北の丸公園の歩道にまで長い列を作り、開場と同時に、わくわくした表情でお目当てのブースへと一目散に向かっていきます。

◇1階イベントホールと屋外を使った会場には出展ブースが所狭しと並び、小さなお子さんから中高大学生までが興味の赴くままに実験や工作、観察にチャレンジし、いつしかその面白さに夢中になっている――そんな光景が今年も会場のあちらこちらに見られました。それを見守るご家族や先生方の様子もふくめて、会場はまるで“縁日”のような、にぎやかで温かな雰囲気に包まれていました。

◇こうしたにぎわいは、今夏の館全体をも包みこむものでした。まるで“フェス”のような心弾む空間は、訪れたすべての人の熱気によって作られるのだと感じています。〈永〉

特集 大盛況！館の“夏フェス”レポート

熱気に満ちた科学技術館の夏イベントを総まとめ！

この夏、科学技術館には昨夏を超える多くの来館者が訪れ、館内には連日、子どもたちの歓声があふれていました。関係者の皆様と共に、多彩な催しが連日行われた館内は、まるで“科学フェス”と呼ぶにふさわしいにぎわいぶりでした。この熱気に包まれた季節をアルバムにつづるように――今号は当館で開催された夏のイベントを総括してレポートします。

この夏に科学技術館で開かれた「青少年のための科学の祭典 2025 全国大会」や、展示棟内の様子。子どもたちがさまざまな場所で実験・工作・観察を楽しんだ

昨年からさらに入館者数も増加、全館で活気づいた夏休み

この夏の東京都心は、観測史上最多となる猛暑日を記録した暑さとなりました。そうしたなかでの夏休み期間、科学技術館（東京都千代田区）では、子どもたちとそのご家族が屋内で存分に楽しめるような特別イベントを、関係者の皆様のご尽力により、例年以上に数多くお届けすることができました。

7月には、当財団主催の一大科学フェス「青少年のための科学の祭典 2025 全国大会」を当館1階で開催しました。同大会は当初の猛暑の懸念を払拭するようなにぎわいをみせ、来場者数は昨年を4,000人近く上回りました。協力者の皆様の熱意によって支えられている同大会は、今年も幅広い年代の子どもたちに科学の喜びをたっぷりと感じてもらえる場となりました。

また、祭典の初日には、昨年に続き、当館・野依良治館長と「日本学生科学賞」の入賞・入選者の皆さんとの懇談会、そしてスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校の皆さんの交流会も開催しました。さらには「科学技術映像祭」表彰式も今年から夏の開催となり、新設された「学生部門」で初の受賞者が表彰されました。このような新しい動きもあり、大勢の若者世代も当館に集い、活気づく夏となりました。

8月には、特別展「科学捜査展 returns」の開催に加え、各分野の関係者の皆様が、子どもたちのために多彩で魅力的なプログラムを連日ご用意してくださいました。こうしたプログラムの充実が功を奏し、8月の入館者数は55,386人に達し、前年同月（43,634人）を11,752人上回る好調な結果となりました。また、夏休み期間を通じて入館者数の変動は比較的小さく、平日・休日を問わず多くのお客様が来館されました。

当館に来れば、どこに行っても何か楽しい発見がある――まさしく“フェス”のような活気のなかで、子どもたちや若者たちが、科学や技術の面白さを全身で感じ取ってくれたなら幸いです。

上）「科学の祭典」の会場には「I Create the Future –XROBOCON in 大阪・関西万博 –」（NHKエンタープライズ）のブースも。ロボコン競技の様子を多くの来場者が見入っていた

左）「日本学生科学賞」入賞・入選者の生徒の皆さんと当館・野依良治館長との懇談会の様子。科学を志す若者同士の貴重な交流の場になった

大集結！科学の夏まつり

7 月は、恒例の大型科学フェス「科学の祭典」やその関連イベント、「科学技術映像祭」表彰式などを開催。会場に活気があふれました。

驚きと感動に満ちた2日間に 16,675 人が来場！

青少年のための科学の祭典 2025 全国大会

毎夏恒例の「青少年のための科学の祭典 2025 全国大会」を今夏も 7 月、科学技術館1階で開催しました。会場には全国から“実験名人” が大集結。2 日間で昨年を上回る 16,675 人の来場者が訪れ、会場は子どもたちの歓声や笑顔であふれました。

「アイデア対決！ 小学生ロボコン体験」（NHK エンタープライズ）：ロボットを動かして、サンプル（紙コップ）の持ち帰りに挑戦！

「ジェットエンジンを作ろう」（ロールス･ロイスジャパン）：ペーパークラフトで本格的なジェットエンジンを工作しました

初出展の団体の方々も！

左）「空気の力を体験しよう」（SMC）：まるでゲームセンター？！ 空気の力で動くクレーンゲーム機を動かしてお菓子をゲット
中）「接着剤の基礎を学んでオリジナル壁掛け時計をつくろう」（セメダイン）：接着剤はすごい！ うまく付けるコツも学びました
右）「AIBOU に乗ろう ―初めての運転体験―」（本田技研工業）：子どもが運転できる未来のクルマの試乗コーナーも大人気

「偏光板でキラキラ万華鏡を作って、石を観察してみよう!」（箱根ジオパーク推進協議会）：石の薄片を顕微鏡で覗くと……！ 偏光の原理も学びました

科学の楽しさを伝える、選りすぐりの 55 ブースが出展！

2025 年 7 月 26 日（土）、27 日（日）に、「青少年のための科学の祭典 2025 全国大会」を科学技術館1階イベントホールと屋外にて開催しました（主催：日本科学技術振興財団 /共催：「青少年のための科学の祭典」全国大会実行委員会）。今年は 2 日間で延べ 16,675 人の方々にご来場いただき、盛況のうちに終了することができました。同大会は、「子どもゆめ基金」からの助成に加え、中外製薬株式会社をはじめとする多くの企業・団体からも協賛、運営協力、広告掲載のご支援をいただき開催することができました。会場では全 55 のブースが出展し、科学工作や生き物観察、実験の演示やステージショーなど、多彩なプログラムが展開されました。子どもたちは、見て、触れて実験や工作を楽しみ、会場は終始、活気にあふれていました。

今回、企業・団体による出展は 29 ブースにのぼり、ロボット体験や科学工作、「カエル研究所の電気エネルギー実験」など楽しいタイトルがついたステージショーも行われ、来場者の大きな関心を集めました。来場者からは、「セミの抜け殻の自然観察がよかった」「偏光板を使った観察や工作が面白かった」といった声も寄せられました。

個人出展は 20 ブースが参加し、“科学の面白さや楽しさを伝えたい ” という熱い思いを持った先生たちによる科学工作、生き物の観察、実験の演示、錯覚や木のおもちゃなどのステージショーがあり、どのブースも大変にぎわいました。予想を上回る来場者数により、中には初日で材料が不足するブースもあり、急遽補充を行うほどの盛況ぶりでした。来場者からは、「ウミホタルの観察をすることができてよかった」「パラグライダーやへんしんパズルの工作が楽しかった」などの声が寄せられました。

時代を越え、親子二代にわたって参加するご家族も

「日本学生科学賞」の 6 ブースでは、受賞した学生たちが自分の研究について熱心に紹介をしてくれました。着ぐるみやぬいぐるみで親しみを演出するブースもあれば、実際に実験を演示してくれるところもあり、それぞれの工夫が光っていました。「今回の祭典の経験を得て、今後の研究に役立てたい」という声もいただき、彼らにとって貴重な発表・交流の場となったようです。

その他、「子どもの頃に来ていたが自分の子どもを連れて来場することができて嬉しい」といった祭典の歴史を感じるコメントや、「いろいろな分野があり面白く良い学びの場であった」

科学教育に携わる先生方も！

左上）「次々と落ちる水滴が止まったり上ったり!? ストロボ効果の不思議」（新潟南高等学校・小田部悠さん）／右）「ダイヤモンド燃やします もちろん本物!」（元中学校教諭・阿子島充さん）／左下）「ゆるロボットハンドを作ろう!」（科学のおやつ・池田奈央さん）：科学教育に携わる数多くの先生方も出展。今年初出展してくださった先生方も、とてもユニークな実験や工作で子どもたちの好奇心を呼び起こしてくださいました

大学生サークルも！

「鏡と光で『反射』をまなぼう! 」（東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST）：当館サイエンス友の会でも協力いただいている東大 CAST の学生の皆さんも祭典に初参加。光の反射や発光をテーマとした実験に子どもも大人も釘付けでした

当財団も出展に協力

左）「缶バッジをつくろう」（日本鉄鋼連盟／当館協力）：当館の展示室「鉄の丸公園 1 丁目」で行っているワークショップも祭典に出展！
右）「カエル研究所の電気エネルギー実験～ LED の色が変わるマジック～」他（電気事業連合会／日本科学技術振興財団）：電気エネルギーがテーマの3つのミニステージショーも大盛況！

手で触れて遊べる体験コーナーがいっぱい

上）「へんしんパズルに挑戦! ー4平面まじわりパズル」（慶應義塾高等学校・車田浩道さん）：4枚の紙を交差させて立体を作りました／左）「ミニ・パラグライダー」（元公立鳥取環境大学・足利裕人さん）：できあがったら試験飛行!／右下）「土の中の生き物さがし」（東京学芸大学附属世田谷中学校・河野晃さん）：土の中に生きている生き物を探して観察！

「第68回日本学生科学賞」研究発表ブース&ステージも！

「岐阜のオオサンショウウオを守る」（岐阜県立大垣北高等学校、高校の部・内閣総理大臣賞）：サンショウウオの着ぐるみやぬいぐるみで親しみを演出しながら生態についてお話をする同校自然科学部の皆さん

「あさがおのつるの研究8年目」（福島大学附属中学校、中学の部・内閣総理大臣賞）：アサガオのつるの巻きつきと植物ホルモンの関係についてステージで研究発表を行い、質問にも答える横川眞子さん

という教職員の方の声、「子どもたちが楽しく科学に触れることができた」「出展者の方が熱心に丁寧に教えてくれた」という保護者の方々の声もありました。来場者の約 4 割の方が「初めて祭典に来た」とアンケートに回答されており、多くの方がその混雑ぶりに大変驚かれていましたが、それでも、大きな事故やけがもなく、無事に祭典を終えることができました。

たくさんのお客様の声に応え、さらなる充実を目指して

現在、来年度に向けて実行委員会の先生方と共に、祭典の運営体制や内容について協議を重ね、さらなる充実を目指しております。出展者や来場者の皆様にとって分かりやすい運営ルールの明確化を図るとともに、中高生にも楽しんでいただけるよう専門性の高い出展内容の充実にも努めてまいります。また、出展者と来場者の間に自然な科学的対話が生まれるよう、会場設計や雰囲気作りにおいても、さらなる工夫が必要であると考えております。

より多くの世代の皆様に科学の面白さを伝えられる祭典となるよう、引き続き取り組んでまいります。どうぞ今後とも変わらぬご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

〈人財育成部　斉藤　幸子〉

青少年のための科学の祭典 2025 全国大会開催概要
http://www.kagakunosaiten.jp/

●開催日：2025 年 7 月 26 日（土）～7 月 27 日（日）9：30 ～ 16：00
●場 所：科学技術館 1階イベントホール、屋外
●主 催：公益財団法人 日本科学技術振興財団
●共 催：「青少年のための科学の祭典」全国大会実行委員会
●協 賛：中外製薬株式会社／公益財団法人東レ科学振興会／一般社団法人日本鉄鋼連盟／科学技術学園高等学校
●出展・運営協力企業・団体：アドバンテック東洋株式会社／SMC株式会社／株式会社NHK エンタープライズ／株式会社大橋製作所 メタル事業部／原子力発電環境整備機構／セミの抜け殻しらべ市民ネット／セメダイン株式会社／電気事業連合会／東京大学サイエンスコミュニケーションサークルCAST ／東京電力ホールディングス株式会社／公益財団法人東レ科学振興会・世田谷学園中学校高等学校／株式会社ナリカ／国立研究開発法人日本原子力研究開発機構／一般社団法人日本自動認識システム協会／一般社団法人日本鉄鋼連盟／日本電子株式会社／一般社団法人日本風力エネルギー学会／箱根ジオパーク推進協議会／本田技研工業株式会社／国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構／ロールス・ロイスジャパン株式会社／読売新聞社／刈谷市立富士松中学校／東京都立小石川中等教育学校／福島大学附属中学校／広島県立広島高等学校／埼玉県立坂戸高等学校／岐阜県立大垣北高等学校／大妻女子大学
●「子どもゆめ基金」助成活動
※「青少年のための科学の祭典 2025 全国大会」は、独立行政法人国立青少年教育振興機構の子どもゆめ基金の助成を受けて実施しています。

National Institution For Youth Education 独立行政法人 国立青少年教育振興機構
「子どもゆめ基金助成活動」
体験の風をおこそう

理数系の中高校生たちが集合！ 友情を育んだ交流会

「日本学生科学賞」入賞・入選者たちとノーベル賞受賞者・野依良治館長との懇談会 ＆ スーパーサイエンスハイスクール交流会～海洋物理学の第一人者・山形俊男先生 特別講演

今夏も科学の祭典の初日に、科学を志す若者たちと科学界の第一人者が集い、交流を深める 2 つのイベントを行いました。

上）当館第 4 会議室を会場に開かれた野依館長（左）との懇談会。その右隣は当財団・山口専務理事。生徒たちの質問に野依館長が率直に答えた／右）最後には生徒たちと野依館長とでガッツポーズ！

上）第 3 会議室を会場とした SSH 交流会。参加者が活気あるディスカッションを行った／中）野依館長が登壇し「友達を作る大切さ」を伝えた／左）「異常気象と海」をテーマとした山形先生の講演。気象データを分析する意義、科学者の役割、生き方をも考える機会に

若者たちからの質問に、野依館長が回答したメッセージ（抜粋）

Q　野依先生は困難にぶつかった時に、どう乗り越えてこられましたか？

困難？ いいじゃない。困難こそ、新しい発見のきっかけになるからね。なんでもすいすいやったら面白くないよ。うまくいかないということは、そこに本質的な問題があるということ。学校では、問題を与えられて解くことばかりやってきたね。それよりも、自分で問題を作らなきゃいけないね。それはものすごい大変だけれど、その過程で大事な発見が偶然に見つかることが多い。あなたは自分で困難を見つけたね。それはチャンス。神様からの贈り物だよ。

Q　野依先生、研究の情熱をどのように持ち続けられたのですか？

研究が一番面白いからかな。あまりやらされたって思いがないからね。自分で考えてやることは楽しいよ。絵を描いたり歌を歌ったりするのだって下手だからやるんだよな。先生が直すと上手な絵になるけど、あれは気に入らない。やっぱり自分で描いて、下手くそだけど自分でやったことのほうが生きがいになるんじゃないかな。

山形先生から若者へのメッセージ（抜粋）

どんなものでも始まりがあって終わりがある。我々人類も、残された未来の時間は最短で考えると5000 年しかなく、未来は限られています。戦争をしたり破壊したり余計なことをする時間はないんですね。吉野源三郎の『君たちはどう生きるか』という本があるけれど、皆さんも「どう生きるか」を見直して、この本のコペル君のように、互いに他者を思いやり、素晴らしい文化を築いていこう。

科学を志す若者たちに、野依館長が研究や生き方についてアドバイス

「科学の祭典」初日の 7 月 26 日（土）、昨年に続き、科学を志す中高生たちが科学技術館に集まり、2 つの交流イベントを行いました。一つは野依館長との懇談会、もう一つはスーパーサイエンスハイスクール（SSH）交流会です。これらの催しは、若者同士での交流を図ると共に、科学分野の第一人者の先生方と直接対話し、将来への励みにしてもらうことを目的としています。

午前中は、「第 68 回 日本学生科学賞」（主催：読売新聞社）の入賞・入選者たちと、ノーベル化学賞受賞者である科学技術館・野依良治館長との懇談会を行いました。この日、「科学の祭典」の隣接会場で「日本学生科学賞」の研究発表・展示を行った 6 個人・団体、計 10 人の全国各地の中高生の皆さんが、当館第 4 会議室に集い、野依館長と対面しました。

はじめは緊張していた生徒たちも、野依館長が飾らない言葉で、新しい時代の研究への取り組み方や生き方について真摯に語りかけるうちに次第に表情が和らぎ、次々と質問が挙がりました。その一つ一つに野依館長が率直に答えていくと、生徒たちも真剣な面持ちでうなずき、時に笑顔になる場面も。研究を志す若者たちにとって、この時間は将来への大きな励みとなったことでしょう。

親睦を深めたディスカッション、海洋物理学者・山形先生もメッセージ

続く交流イベント「スーパーサイエンスハイスクール交流会」では、都内 10 校の SSH の生徒たちが集い、「日本学生科学賞」の生徒たちも合流して交流を図りました。開催にあたっては、今年も元都立科学技術高等学校の田中義靖先生と SSH 指定校の先生方に協力いただきました。

交流会では、「科学の祭典」の片江安巳実行委員長、野依館長、田中先生の順で登壇し、若者たちへ力強いメッセージと今回の交流会の趣旨が伝えられました。その後、生徒たちはグループに分かれて円陣を作り、自主的に決めたテーマに沿って活発なディスカッションを行いました。午後には参加者が「日本学生科学賞」展示会場を見学。すっかり打ち解けた若者同士で語り合い、友情を育む様子が見られました。

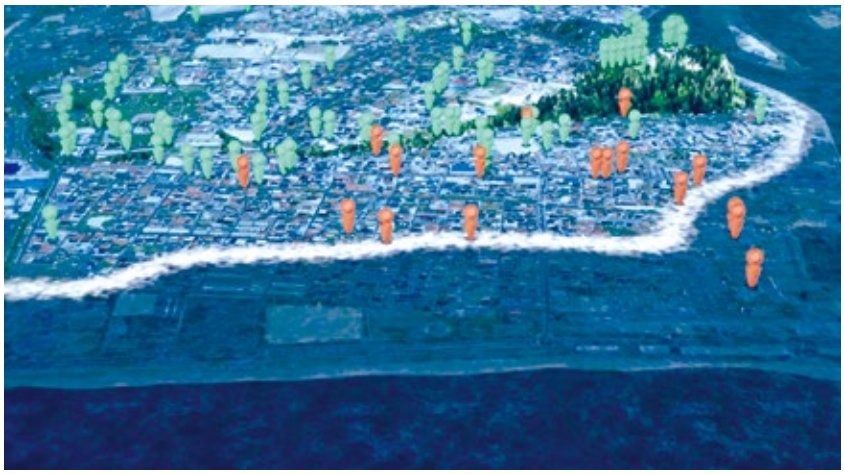
この日の最後は、海洋研究開発機構アプリケーションラボ特任上席研究員・東京大学名誉教授の山形俊男先生が、特別講演「異常気象と海」を行いました。現在、大きな環境問題となっている異常気象が海の温暖化など気候変動現象の変化に密接に関係していることを丁寧に解説され、この時代に気象を考えることの意義と共に、生き方を考えることの大切さを伝えてくださいました。　〈経営企画室／人財育成部〉

新設「学生部門」で２作品が初受賞！

映像文化製作者連盟、つくば科学万博記念財団
新技術振興渡辺記念会、当財団　主催

「第 66 回 科学技術映像祭」入選作品が決定、表彰式を開催

第66回を迎えた「科学技術映像祭」の入選作品がこの夏に決定し、2025 年 7 月 28 日（月）、科学技術館サイエンスホールにて表彰式を開催しました。今回から新設された「学生部門（大学生まで）」にも数々の作品が寄せられ、2作品が「学生部門奨励賞」を受賞しました。



内閣総理大臣賞　〈一般部門・長編〉
『テレメンタリー2024 “3.11”を忘れない93　100人の証言　命をつなぐ津波避難』
企画・製作：株式会社　東日本放送

上）表彰式での記念撮影／下）赤松健文部科学大臣政務官（左、当時）から内閣総理大臣賞賞杯を授与された東日本放送の本作品ディレクター・鈴木奏斗さん（右）

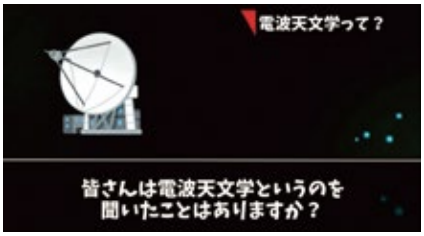
内閣総理大臣賞は東日本大震災がテーマ

「第66回科学技術映像祭」の表彰式を、7月28日（月）、科学技術館サイエンスホールにて開催しました。本映像祭は、科学技術の発展や普及啓発に寄与する優れた映像作品を顕彰することを目的に 1960 年に創設され、以来 60 年以上にわたり科学技術映像の振興に貢献してきました。今回も全国から多彩な作品が寄せられ、内閣総理大臣賞 1 点、文部科学大臣賞 4 点などに加え、今年度新設された学生部門で奨励賞 2 点が選出されました。

今年度の特徴として、防災や生命科学など社会的関心の高いテーマを扱った作品が多く、映像を通じて科学技術の意義や課題を分かりやすく伝える工夫が随所に見られました。

最高賞である内閣総理大臣賞には、東日本大震災の被災住民 100 人への取材をもとに避難行動を検証した『“3.11” を忘れない 93　100 人の証言 命をつなぐ津波避難』（株式会社　東日本放送）が選ばれました。津波から命を守るための判断や地域の取り組みを克明に描き、今後の防災対策に資する作品として高い評価を受けました。

学生部門奨励賞　〈学生部門・短編〉



『電波天文学って？』
製作：東京都立科学技術高等学校

短編作品で同賞を受賞された東京都立科学技術高等学校の代表者（右）と永野博運営委員長（左）

〈学生部門・長編〉

『私を守るのは わたし～オーバードーズの危険～』
企画・製作：椙山女学園大学

長編作品で同賞を受賞された椙山女学園大学の代表者（右）と永野委員長

若者の新鮮な視点が光った「学生部門」

また、今回特に注目を集めたのが新設の「学生部門」です。次世代を担う若者が科学に主体的に向き合い、映像表現を通して社会に発信する機会を広げることを目的に創設されました。奨励賞には、『電波天文学って？』（東京都立科学技術高等学校）と、『私を守るのは わたし～オーバードーズの危険～』（椙山女学園大学）の 2 作品が選ばれました。前者は電波天文学の魅力を高校生ならではの視点で分かりやすく解説し、後者は若年層の間で問題となっている薬物の過量服用について警鐘を鳴らす内容で、いずれも新鮮な視点と社会的意義を兼ね備えた作品として高く評価されました。

表彰式後には受賞者と審査員によるパネルディスカッションも行われ、科学映像の社会的役割や、映像を通じてどのように次世代へ知識や教訓を伝えていくかについて活発な意見交換がなされました。受賞者からは「作品を通じて少しでも社会の役に立てればうれしい」「学生として挑戦できたこと自体が貴重な経験になった」といった声が聞かれ、会場は熱気に包まれました。

本映像祭は、科学技術と社会をつなぐ映像の可能性を広げる貴重な場として、今後もその発展が期待されます。

〈人財育成部〉

科学技術映像祭：https://ppd.jsf.or.jp/filmfest/

SPECIAL SUMMER EVENTS

夏の特別イベント

当館では、この夏も、たくさんの子どもたちに科学の世界を通じて楽しい思い出をつくっていただけるよう8月8日（金）から24日（日）まで夏休み特別展「科学捜査展 returns」を開催しました。また、8月19日（火）には、児童養護施設の小学生の皆さんをご招待する特別イベントも実現しました。

10年ぶりに科学技術館に帰ってきた！ 科学捜査展returns

夏休み特別展「科学捜査展 returns」

〈科学捜査体験「捜査体験シミュレーション」コーナー〉

タブレット端末を使って手がかりを集め、事件や事故の真相を探っていく「捜査体験シミュレーション」コーナーでは、期間中、4つのストーリーを体験いただき、好評を博した

科学技術館ではこの夏、10年ぶりに「科学捜査」をテーマにした特別展を4階特設会場で開催しました。2015年夏に開催した「科学捜査展 #SEASON 2」をベースに再構成したもので、科学捜査の鑑定手法の体験や、タブレットを使った捜査体験シミュレーションを多くの子どもたちが楽しみました。

当館では、2015年8月以来10年ぶりとなる「科学捜査展＃SEASON2」を、「科学捜査展 returns」として再構成し、夏休期間の8月8日（金）～24（日）に特別展として開催しました。本展示は、2011年8月に実施した「科学捜査展」に続く巡回展示物として当館が製作したもので、通常は全国の科学館等に貸し出しを行っています。今回は特別企画として当館で開催を実施し、多くの来館者に科学捜査の魅力を体験していただきました。

展示コーナーでは、事件や事故現場に残された証拠を手がかりに、特殊なライトや機器を用いた鑑定手法を体験できる内容としました。その中の「指紋鑑定」コーナーでは、来館者が自分の指紋の型を確認しながら鑑定作業に挑戦したり、「足跡鑑定」コーナーでは静電気を利用した足跡の採取過程を実際に体験したりする姿が多く見られました。

今回も人気！「捜査体験シミュレーション」

さらに、「捜査体験シミュレーション」コーナーでは、タブレット端末を「捜査手帳」に見立て、事件現場を再現したセットの中から手がかりを集め、事件解決までを体験しました。参加者は、集めた証拠や証言だけでなく、ガスクロマトグラフの分析結果や血痕・塗膜分析などの科学的根拠をもとに推理を進める必要があり、科学捜査の奥深さを実感できる内容で、実際にクリアできずに2回、3回と挑戦する参加者も見受けられました。

期間中には、シミュレーションの4つのストーリー（誘拐事件、火災事件、盗難事件、交通事故）すべてを体験した来場者や、10年前の初回開催にも参加していた方の姿も見られ、本展示の長年にわたる人気と関心の高さがうかがえるイベントとなりました。〈科学技術館運営部　遠藤 紀子〉

科学技術館　巡回展示物のご案内（貸し出しのご案内）
https://www.jsf.or.jp/business/travel/

〈科学捜査紹介コーナー〉

上）「足跡鑑定」コーナー。靴の跡に特殊ライトを斜めから当てるとダストが可視化され足跡が浮かびあがる

左）「塗膜分析の原理」展示。赤外分光法のモデル装置で実験に挑戦中！

「科学捜査展returns」関連ワークショップも開催！

「科学捜査」のモチーフでキーホルダー作りも行った

「Chim-Don ひろば」とのコラボワークショップ「つくろう！ためそう！指紋採取キット」も開催

三菱商事 主催

児童養護施設のみんなで一緒にとびきり楽しい科学体験！

三菱商事「MC SCIENCE SCHOOL」×科学技術館 特別プログラム

2025 年 8 月 19 日（火）に、三菱商事株式会社主催・科学技術館協力による特別プログラム「MC SCIENCE SCHOOL」を、今年も科学技術館にて開催しました。当館に児童養護施設で生活する小学生の皆さんを招待し、科学の面白さに触れられる特別プログラムを通じて、夏休みの楽しい思い出となる一日を過ごしていただきました。

2つの風船に静電気を起こすとご覧のとおり！ 子どもたちからは歓声が

夏休み恒例の特別イベントとして定着してきた、三菱商事株式会社主催・科学技術館協力による「MC SCIENCE SCHOOL」を、今年も 8 月 19 日（火）に当館にて開催しました。このイベントは、児童養護施設で生活する子どもたちを当館に招待し、さまざまな体験を通じて科学への関心を深めてもらい、楽しい夏休みの思い出をつくっていただくことを目的としています。

今年度も、複数の施設から集った小学生の皆さんが参加し、サイエンスショーや実験工作、映像体験を楽しみました。

事務局の三菱商事総務部社会貢献チームの皆様と、同社の社員ボランティアの皆様が、今回も現場をサポートをしてくださり、各施設の先生方と共に、子どもたちを温かく見守ってくださいました。当館は、実施プログラムの開発・現場運営を担当し、2つのプログラムの講師・解説も務めました。

4つの特別プログラムを存分に楽しんで

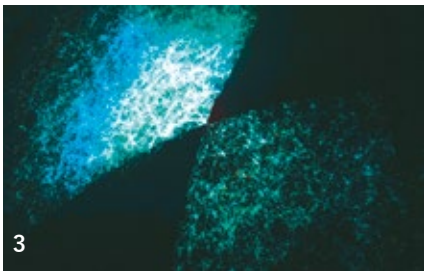
今年度も、4つのプログラムを子どもたちに楽しんでいただきました。前半の「実験スタジアム L」でのサイエンスショーと実験工作ワークショップは、今年もサイエンスパフォーマーのすずきまどかさんが講師を務め、楽しいトークで子どもたちを盛り上げました。「超低温実験」では、－196°Cの液体窒素に花や風船を入れたり取り出したりすることで生じる物体の変化に、子どもたちの目も釘付けになっていました。

また、今年度新しく実施した実験工作ワークショップ「静電気遊び 風船ロケット」では、細長い風船をこすって静電気を起こして人や物にくっつけたりする「静電気」実験と、風船に尾翼やおもりをつけて遠く飛ばせるよう工夫し、完成したロケットを飛ばしあう「風船ロケット」作りを楽しみました。

後半は、「実験工房」へ移動し、当館スタッフによる「実験教室　なぞの 3 つの液体」で“謎解き”化学実験に挑戦しました。この実験では、3 本の試験管に入った無色透明な液体の“正体”を、試薬やにおいや観察で探りました。皆、研究者さながらに真剣な表情で実験に取り組み、見事に“正体”を突き止めてくれました。

最後は、全天周デジタルドーム「シンラドーム」で「宇宙の旅」を楽しみました。夏の星座を投影した後、太陽系や天の川銀河、そして現時点で観測できる“宇宙の果て”までの旅を疑似体験。上演後、お子さんが先生に「すごかったぁ」と楽しげに話す様子も見られました。

講師の先生やスタッフともいつしか打ち解けた子どもたち。あるお子さんが、「面白かった!」と満面の笑みを見せると、先生やスタッフたちにも思わず笑みが。この一日が、子どもたちにとって、とびきり楽しい夏休みの記憶として刻まれることを願ってやみません。　〈経営企画室／科学技術館運営部〉



1. すずきまどかさんによる「超低温実験」の様子
2. 「なぞの3つの液体」を調べる化学実験に挑戦
3. 「宇宙の旅」上演で“宇宙の果て”の世界を体感
4. 当日もお子さんをサポートいただいた三菱商事のスタッフの皆様、すずきまどかさんと当館スタッフ

IN COLLABORATION WITH EXHIBITING ORGANIZATIONS

出展者の方々と共に

**科学技術館は、多様な産業分野の業界団体や企業の皆様の出展により支えられています。
夏休み期間中には、出展者の皆様の主催・協力によって多彩なイベントが実施され、
子どもを中心とした来館者に新しい関心を呼び起こす貴重な機会となりました。**

雰囲気は参加者と共に作られる

日本製薬工業協会　主催
カールツァイス、当財団・科学技術館　協力

「製薬協 クスリウム研究室 2025 秋」

日本製薬工業協会（製薬協）出展の展示室「くすりの部屋 – クスリウム」に 2025 年 9 月、2つの新しい実験ショー「酸とアルカリ」と「くすりをみつける」が正式に加わり、開催数も 1 日 3 回に拡大。これを記念した特別イベントを 9 月 14 日（日）・15 日（月・祝）に当館で開催し、大盛況となりました。

クロマトグラフィーをテーマとする新実験ショー「くすりをみつける」を記念して行った「カラフル体験！クロマトグラフィー」。後ろの人も一緒になって聞いてくれています

裏にイベントのタイトルを印字した特製の栞

2つの新プログラム始動を記念して

イベント「製薬協 クスリウム研究室」の始まりは、科学技術館 3 階「くすりの部屋―クスリウム」展示室に大型新展示を迎えたこの春のこと。今回は、同展示室のプログラム「チャレンジ新薬ゼミナール」に新たな実験ショーが加わったことを記念し、“2025 秋 ” として開催しました。

同展示室の実験ショーは、従来の「くすりを取り出す」に、「酸とアルカリ」と「くすりをみつける」を追加した 3 種になりました。通常は 3 種の “ 全制覇 ” を目指すと丸 1 日掛かるため、今回は展示室とイベント会場の 2 カ所で実験ショーを行い、約半日で “ 制覇 ” できるようスケジュールを工夫しました（下図参照）。

大盛況となったクロマトグラフィー体験

昼には、ワークショップ「カラフル体験！クロマトグラフィー」を行いました。“ 読書の秋 ” ということで、今回は特製の紙を使ってクロマトグラフィーを栞のお土産にするという特別感を出しました。席数は全 6 ～ 7 席設け、空席ができ次第、順番にご案内するため、事前に待ち時間用の動画を用意したのですが、それでも待ち人数が非常に多かったので、体験の様子やワンポイント・アドバイスをジェスチャーも交えてマイク越しに話すなど、できるだけ待ち時間をストレスに感じないよう工夫しました。

待っているお客様が後ろでうなずく様子や、自分の順番が来てにっこりする表情を見ることができたときは、ホッと安心しました。結果的に参加人数は 2 日間で 223 名と、大盛況でした。

動画とは異なり、目の前で起きることを自分の目で確かめることができるのが、生の実験ショーやワークショップの良さです。演示者としても、リアルタイムで繰り広げられる参加者の反応は、プレッシャーであり、学び・楽しみであり、その場の雰囲気に加えられるスパイスでもあります。貴重な時間を使ってくださっていることへの感謝と、雰囲気は参加者と共に作られることを意識しながら、今後も活動を続けていきたいです。

〈科学技術館運営部　雁部 貴美〉

常設展示室とイベント会場をあわせたスケジュール

	酸とアルカリ	くすりをみつける	くすりを取り出す
10時30分～	イベント会場	×	×
11時00分～	×	展示室	×
11時30分 ～ 12時00分　ワークショップ「カラフル体験！クロマトグラフィー」			
13時30分～	×	×	展示室
14時30分～	×	イベント会場	×
15時00分～	展示室	×	×

この2日間は、ほぼ半日ですべてのくすりの実験ショーに参加できるよう日程を工夫した

左）参加者の反応を常に意識して新実験ショー「酸とアルカリ」の拡大版を披露／上）終了後に質問に来てくださるのも、うれしいひととき

身近な自転車と、さらに親しくなる機会に

日本自転車普及協会　主催

自転車広場「夏休み自転車子ども相談」「自転車科学教室」「展示解説ツアー」

「自転車広場」展示室を出展いただいている日本自転車普及協会とのさらなる協力体制のもと、昨年度に引き続き、今年度も館内にて自転車に関するさまざまなイベントを開催しました。今回も多くの方々に来場いただき、自転車の世界にたっぷり親しんでいただきました。

現在の三輪車と同じ駆動方式のミショー（上の写真・左から２番目）や、当時速く走るために工夫されたオーディナリー（下の写真）を解説

二輪車を安定させる要因の一つであるジャイロ効果について、自分の身体全体を使った実験で体感

子どもも大人も知りたい！自転車のこと

科学技術館２階「自転車広場」展示室は、自転車文化センター（東京都品川区）の外部展示室という位置付けでもあります。当財団・科学技術館は、同センターを運営する一般財団法人日本自転車普及協会からさまざまなご助力を得ていますが、2025 年夏はさらなる協力体制で、自転車に親しんでいただく機会を設けました。

８月１日（金）と 22 日（金）には、自転車に関する著書もある学芸員の森下昌市郎さんによる「『自転車広場』夏休み自転車こども相談」として、展示室前で自転車に関する質問を、大人からのものも含めて受け付けました。

科学教室、展示解説ツアーも大好評

また、８月 12 日（火）には、昨夏に続き、センター主催の「夏休み『自転車科学教室』」を科学技術館４階「実験スタジアム」で開催いただきました。「自転車はなぜ倒れないの？」といった疑問に対して、科学技術館の実験道具も使って学べる教室でした。

加えて、相談や教室の間の時間に三日とも、森下学芸員による「自転車広場」展示解説ツアーが開催されました。自転車技術史の変遷をはじめとするさまざまな見どころを、専門家が熱を込めて紹介する貴重な機会で、こちらも夏休みの自由研究などの題材としても活用いただけたものと思います。

〈科学技術館運営部　松浦　匡〉

「自転車広場」（２階）
展示室には、現代から見れば奇妙なかたちのものも含む歴史的な自転車がたくさん

自転車は誰にとってもパーソナルで初めての乗り物。その魅力を伝え、社会活用を目指したい

一般財団法人日本自転車普及協会 自転車文化センター　学芸員　森下昌市郎さん

森下さんによる自転車相談窓口が２日にわたって開設された

「自転車文化センター」の外部展示室でもある科学技術館２階「自転車広場」は、毎年多くの子どもたちに自転車の歴史や魅力を伝える場所として機能していますが、目黒駅近くの「自転車文化センター」とは距離的に離れているため、質問などに常時は対応できない状態が続いていました。

そこで 2024 年度は、科学技術館の開館 60 周年に合わせて、４階「実験スタジアム」を会場に「自転車科学教室」を開催し、併せて展示解説も実施しました。

2025年度は、加えて展示解説と個別の質問回答コーナー設置の日程も設けて、教育普及活動の拡充を目指しました。

自転車は、誰にとってもパーソナルな交通手段として初めての乗り物であります。この自転車の魅力を伝え、社会での活用を目指して今後も日本科学技術振興財団・科学技術館と共に事業を進めて参りたいと考えています。

鉄のいろんなこと、遊びながら学んだよ

日本鉄鋼連盟　協力・主催

「鉄の丸公園１丁目クイズラリー」「鉄はくるくるリサイクル　遊ぼ～触ろ～学ぼ～ 鉄学フェス！」

この夏、科学技術館では、クイズやボードゲームなど、さまざまな遊びを取り入れて鉄について楽しく学べる2つの特別イベントが会場をにぎわせました。いずれの会場でも、子どもたちとそのご家族が集い、鉄のことを楽しく語り合う様子が見られました。

上・左）展示室「鉄の丸公園1丁目」を会場としたクイズラリーの参加風景。子どもたちはお母さんらとクイズの該当箇所を見つけて、答えを書き書き

全部答えて受付にシートを手渡すと、うれしい景品が！ 博物館実習生も作業に慣れてきたところ

日本鉄鋼連盟ご提供の景品は「カーボンニュートラル」フォルダと「鉄学」２種

クイズラリーで鉄の展示に、より関心を

科学技術館４階の展示室「鉄の丸公園1丁目」にて、2025 年8月6日（水）・７日（木）に、毎日のワークショップ・プログラムの開催に加え、クイズに答えながら展示室内を見学して、身の回りの生活で使われている鉄について学ぶ「鉄の丸公園１丁目クイズラリー」を当館企画、一般社団法人日本鉄鋼連盟のご協力のもと開催しました。

参加者は展示室入口でクイズシートを受け取り、展示物の体験や解説からクイズの答えを探すため、展示物を動かすだけではなく、壁面にあるグラフィック・パネルの解説を読むことで、より関心を持って展示室を回っていただけるようになります。夏休みの平日ということで母親と子どものご家族連れを中心にご参加いただきました。

このイベントを実施するためには、通常よりも作業が増えます。クイズシートと筆記具の配布や解答後の受付、お渡しする景品の準備、さらには参加者数の集計などの作業が発生しますが、今回は、博物館実習生に作業をお願いしました。そして、その景品については、展示室を出展されている日本鉄鋼連盟に、「鉄学」の冊子やフォルダをご提供いただきました。

「実験スタジアム L」を会場とした鉄学フェスで、スタッフの解説を聞きながら「鉄の転生すごろく」を笑顔で楽しむ来場者

鉄学フェスの「砂鉄アート」では真っ白なクマが砂鉄でパンダに大変身

鉄フェスは内容も盛りだくさん！

日本鉄鋼連盟は、鉄がリサイクルに優れた素材であることを広く知っていただくためのさまざまな活動を行っています。その一環として、昨年に続き今夏も、同連盟の主催により、「鉄はくるくるリサイクル遊ぼ～触ろ～学ぼ～　鉄学フェス！」が７月 19 日（土）、当館内イベントスペース「実験スタジアム L」を会場にして開催されました。

鉄のリサイクルをイメージできるボードゲーム「鉄の転生すごろく」や、集めた鉄や武器、アイテムをリサイクルして最強のハンターを目指す「リサイクルハンター」、他にも、「砂鉄アート」「スチール缶釣り」「鉄探し」といった、鉄の性質や遊び要素にあふれたコーナーが盛りだくさんのイベントでした。

今年の夏は常設の展示室でのクイズラリー・イベントに加え、出展者による特別イベントの会場としても当館スペースをご利用いただいたわけですが、これも業界出展方式ならではのことだったと思います。今後もご協力を賜りながら、より良いイベントを開催できればと思います。

〈科学技術館運営部　荻野　亮一〉

日本鉄鋼連盟・みんなの鉄学
https://www.jisf.or.jp/kids/

銅の魅力を伝える体験がいっぱい！

日本銅センター、日本鉱業協会
エネルギー・金属鉱物資源機構　主催

「『銅の日』イベント　銅のすごい特徴を体験してみよう！」

銅に関係する企業や団体が集まり、子どもたちに銅の特徴や魅力を伝える「銅の日」イベントが、昨年に引き続き、今夏も科学技術館で開催されました。銅をテーマにしたおはなしや、さまざまな実験・工作などのワークショップが行われ、盛りだくさんの内容となりました。

「金属のおはなし」イベントホールに隣接する工作室に多くの参加者が集い、金属のおはなしに耳を傾けた

「銅はどうやってつくられるの？ 銅の作り方とリサイクル」銅鉱石から銅を作るプロセスを学習!

「『菊絞り』で銅のお皿を作ろう　板金職人体験」専用のペンチを使って、菊の花のような模様を作る板金加工に挑戦！ しなやかに形を変える銅の加工に子どもたちも夢中だった

銅の面白い性質を、うんと楽しんで学ぶ

2025年8月2日（土）、科学技術館の4階団体休憩室・イベントホールにて、「銅の日」イベントが昨年に続いて開催されました。このイベントは、銅に関係する企業・団体が集結して子どもたちに銅のすごい特徴や魅力を伝えるイベントです。一般社団法人日本銅センター、日本鉱業協会、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構が主催となり、さまざまな企業・団体が協力されました。

科学技術館4階にある展示室「Metal Factory（メタルファクトリー）」（出展：日本鉱業協会）では、さまざまな非鉄金属の鉱物やその金属を活用した製品など、非鉄金属と私たちの暮らしとの関わりを紹介しています。今回のイベントでは、非鉄金属のうちのひとつである銅の性質について体験を通じて学んでいただき、銅製品とその製造過程などを実物やパネル展示で紹介しました。

〈科学技術館運営部　中村　潤〉

出展プログラム

- 銅鉱石を探そう／金属のおはなし（エネルギー・金属鉱物資源機構）
- 銅はどうやって作られるの？銅の作り方とリサイクル／銅について調べてみよう（日本銅センター）
- 資源探査の世界／カーボンニュートラル、デジタルトランスフォーメーションに使われる銅！？（日本鉱業協会）
- 銅箔で折り紙をしよう（日本伸銅協会）
- 資料提供（ＪＸ金属／住友金属鉱山／東邦亜鉛／DOWAホールディングス／日鉄鉱業／古河機械金属／三井金属鉱業／三菱マテリアル）
- 板金職人体験（望月板金）
- 実験教室（東京大学 CAST）

後援：経済産業省／日本伸銅協会／ＪＸ金属／住友金属鉱山／東邦亜鉛／DOWAホールディングス／日鉄鉱業／古河機械金属／三井金属鉱業／三菱マテリアル／望月板金／東京大学 CAST

「銅鉱石を探そう」ルーペを使ってさまざまな石の中から銅鉱石を探す体験コーナーも

銅に関する実験教室「銅が生み出す電磁誘導」東京大学 CAST の学生たちが講師を務めた

「銅箔で折り紙をしよう」こんな薄いのに銅なの!? キラキラ光る、美しい銅箔での折り紙を体験

「Metal Factory」（4階G棟）
銅や鉛、亜鉛、金、銀、ニッケルなどの非鉄金属について、楽しく学べる展示コーナーです

応募者殺到！ 石炭に楽しく触れられる実験教室

クリーン・コール・デー実行委員会 主催

クリーン・コール・デー 2025 年度記念行事「夏休み子ども石炭実験教室」

石炭をテーマとした恒例の実験教室を今夏も開催。事前募集には 600 件近い応募があり、石炭やエネルギーへの関心の高さがうかがえました。

上）実験では採掘された原炭から岩石などを分離除去し石炭だけを選び出す「選炭」の原理も追体験

左）会場にはミニ展示も行い、各種の石炭や、製鉄に用いられる鉄鉱石やコークスなども触れるように

クリーン・コール・デー実行委員会（事務局：一般財団法人カーボンフロンティア機構〈JCOAL〉）主催の「夏休み子ども石炭実験教室」を、2025 年も科学技術館を会場に、8 月 7 日（木）・8 日（金）に 2 回ずつ、計 4 回実施しました。

各回 20 名程度として事前募集したところ、応募総数はなんと 599 件。急遽 30 名弱ずつ受け入れるよう調整し、それでも倍率約 5 倍となってしまったのは申し訳ないことでしたが、改めて石炭やエネルギーといったことへの関心の高さを実感しました。

ご参加いただけた方とは例年通り、石炭の説明やその観察、選炭や火力発電に関する実験、石炭の燃焼、JCOAL スタッフによるカーボンニュートラルやカーボンリサイクルといった取り組みの紹介などを楽しく行いました。JCOAL による科学技術館 3 階の展示が本年 4 月 1 日に「石炭って知ってる？」として更新されたこともあり、本教室でも展示内の解説資料を共通に使い、また展示も楽しんでいただくよう、ご案内しました。

蒸気機関車の燃料、あるいはゲーム内の素材としては知っていても、日常生活でなかなか目にする機会がない石炭。しかし実際には私たちの生活には欠かせないもので、そのためにさまざまな取り組みもなされています。本教室がそのことに触れるきっかけになれば幸いです。

〈科学技術館運営部　松浦　匡〉

身近にあるけどナゾだらけのモーターを分解！

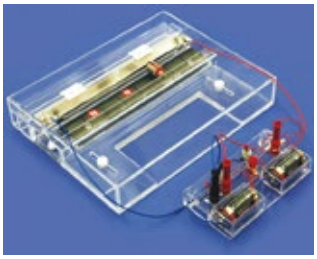
マブチモーター株式会社 協力

実験教室「モーターのしくみ ～モーターが回るナゾにせまる！～」

家の中の電化製品や自動車など、実は身の回りでたくさん使われているモーター。そのしくみを分解して学ぶ、貴重な体験の場となりました。

家の中では約 100 個、自動車では約 50 ～ 100 個のモーターが活躍しています。電気を回転する力に変えるそんなモーターについて、科学技術館 3 階「モーターズワールド」の出展者であるマブチモーターの協力で、夏休みがほぼ始まった 2025 年 7 月 22 日（火）に実験教室「モーターのしくみ ～モーターが回るナゾにせまる！～」を開催しました。

小学校 3 年生～ 5 年生を対象に全 3 回、マブチモーターの社員が直流ブラシ付きモーターを題材に、モーターを使った製品やモーター本体の分解、そしてオリジナルの装置によるさまざまな実験を通じて、モーターのしくみを細かく紹介しました。



上）モーターが回るナゾにせまるためのさまざまな実験ができるオリジナル実験機

左）モーターが使われている製品を当てるクイズには、たくさんの児童の手が元気よく挙がった

冒頭で紹介したように、モーターは身近なさまざまな機器の中にも入っていることや、電気で動く装置であること、また磁石と電磁石の組み合わせであること、電池の向きや数を変えると電磁石の動きはどうなるかなど、楽しく盛りだくさんの内容でした。近年では、電気製品は分解禁止とされていることがほとんどで、安全に、また工具を使わずに機械を分解できたこの機会は、参加者にとって貴重であったと思われます。

また、資料やワークシートに加えて模型用工作モーターと、モーターの秘密や工作のパンフもお土産にいただき、夏の工作にもぴったりの教室でした。

〈科学技術館運営部　松浦　匡〉

IN COLLABORATION WITH EXPERTS

専門家の方々と共に

夏休み期間中は、週末・平日を問わず多くの来館者が訪れ、自由研究のテーマを探すお子さんの姿も多く見られました。新しい学びとの出会いに最適な季節でもあり、さまざまな専門分野の方々が、子どもたちの新たな好奇心や関心の扉を開いてくださいました。

「水の週間」に、みんなで考える水の大切さ

水の週間実行委員会　主催

「水のワークショップ・展示会」

「水の日」（8月1日）、「水の週間」（8月1日～7日）にちなんだ「水」のイベントに多くのご家族連れが来場。水への関心の高さがうかがえました。

「お天気と水に関するおはなし」の様子。水への関心は高く、多くのご家族連れが参加した

「ろ過キット組立体験」の様子。完成品はお土産に

2025年8月4日（月）、科学技術館4階団体休憩室・イベントホールにて、「水のワークショップ・展示会」（主催：水の週間実行委員会）が開催されました。会場では、普段何気なく使っている「水」について、親子で楽しく学べるワークショップなどが行われました。

お話のプログラムでは、吉冨友恭さん（東京学芸大教授）による「水循環に関する講演 魚と水のはなし」、向笠康二郎さん（NHK・気象キャスター）による「お天気と水に関するおはなし」、竹田聖彩さん（2023ミス日本「水の天使」）による「みんなの水」をテーマとした講演が開かれました。

体験プログラムでは、水をきれいにする「ろ過キット組立体験」も催され、たくさんの児童の参加で会場はにぎわいました。　〈科学技術館運営部　中村　潤〉

モールス信号を打って学ぶ！ 無線通信の歴史

電波教育協会　主催

「科学技術館でモールス体験 ～モールス信号「SOS」を打ってみよう！～」

今春の好評を受けて、この夏もモールス信号を打つ体験イベントを開催。子どもたちから大人まで、多くの方々が打鍵に挑戦しました。

「モールス信号カード」などの資料を見ながら打鍵に挑戦。思い通りに符号をつくれたかな？

会場は大賑わい。館SNSにもモールスが
https://x.com/JSF_SMT/status/1972143815718064552

2025年5月に続き、一般社団法人電波教育協会によるモールス符号を用いた通信の体験イベントを、科学技術館2階サイエンスギャラリーで8月2日（土）・3日（日）の両日開催しました。

会場では、「モールス信号」として知られるモールス符号をつくるための装置である電鍵を実際に操作（打鍵）して、その歴史や使われ方を体験することができました。今回用に、小さなお子様でも安心して操作できる電鍵を多数製作いただいた他、自由打鍵コーナーも設定いただき、より多くの方にモールス体験をお届けできました。「トントントンツーツーツートントントン」で知られる遭難信号SOSの他にも、資料を基に自分の名前などを打鍵する音が館内に響きました。

〈科学技術館運営部　　松浦　匡〉

オルゴールを福祉施設に寄贈。贈る側も心豊かに

中山隼雄科学技術文化財団、当財団 共催
南九州大学、都城にこにこクラブ 協力

楽しい工作教室「心をいやすオルゴールを作ろう」

小学生とその保護者にポケットオルゴールを制作してもらい、完成品を障害者施設や高齢者施設に寄贈するワークショップ「楽しい工作教室 心をいやすオルゴールを作ろう」を 2025 年 9 月 27 日（土）、科学技術館第 3 会議室にて開催しました。教室には 13 組・計 28 名のご家族が参加し、受け取る人の笑顔を思い浮かべながら、一緒にオルゴール作りを楽しみました。

子どもたちが教室内で作り、寄贈してくれた
手作りのポケットオルゴールたち

このポケットオルゴールの制作・寄贈活動は、特別支援教育を専門とされる南九州大学の山之内幹教授が、学生たちと共に、地元・宮崎県を中心に実践している取り組みです。今回、その活動が東京の科学技術館において、小学生とそのご家族を対象の工作教室として実現しました。講師は、山之内先生が務め、今回は公益財団法人中山隼雄科学技術文化財団と日本科学技術振興財団との共催により実施しました。

ポケットオルゴールとは、山之内先生と学生たちが考案した、カプセルトイ・ケースにオルゴールのムーブメントを固定した玩具です。重度の障害がある子どもや高齢者の方でも、思わず手に取りたくなるような形をしており、ポケットに入れて歩きながら音楽を楽しめます。

子どもたちも晴れやかな顔で「面白かった！」

教室では、冒頭で、このオルゴールが福祉施設に届けられた時の映像を参加者に観てもらい、制作開始。今回は 1 組につき 2 つのオルゴールを制作し、1 つは持ち帰り用、もう 1 つは全国の福祉施設への寄贈用としました。

最初は、ドライバーなどを恐る恐る使って組み立てていた子どもたちも、山之内先生の的確なアドバイスや明るい励まし、保護者の方々との協働作業によって、次第に自信を持ち、2 個めは手際よく仕上げる姿が見られました。完成後、寄贈用オルゴールを提出する際は、みな晴れやかな表情に。「面白かった！ 贈ることは、とてもいいことだと思う」と話すお子さんもおり、ものづくりを通して、思いやりの心が育まれた様子でした。

最後には、山之内先生から参加者全員に、バイオプラスチック製のオルゴールが贈られ、温かな雰囲気の中で締めくくられました。

この活動は、山之内先生が代表を務めるボランティア団体「都城にこにこクラブ」を中心に 2020 年 10 月からスタート。2025 年 9 月までに、全国 220 以上の福祉施設へ 2,000 個を超えるオルゴールを届けています。作る人も受け取る人も、共に心が癒されるこの温かな取り組みが、さらに全国に広がっていくことを願っています。〈経営企画室／人財育成部〉

人に喜んでもらえて、自分の心も豊かになれる。それが一番です。

南九州大学 子ども教育学科 教授
山之内 幹 さん

このポケットオルゴール活動は、長く地元でやっていたものですが、まさか東京の子どもたちと一緒にできるとは思っていませんでした。今回の教室は私も本当に楽しかった！ この教室が実現できたのも、皆さんのおかげです。この活動は、今年 10 月で 6 年目に入ります。原動力は、やはり「人に喜んでもらえること」が大きい。贈る自分自身も心が豊かになれますよね。それが一番です。

障害を持つ子が、このオルゴールを手に取るとニコッとしてくれるのが嬉しいですね。僕が印象に残っているのは、高齢者施設で 106 歳の方が亡くなられる前、このオルゴールを手にして、とても喜んでくださったことです。そういう話を聞くと、長くやってきた甲斐があったと思います。この活動は、いわば“還元”。僕は大学で研究をしているけれど、それを社会に還元することも大事な仕事なんです。これは感謝の気持を込めた、社会に対する「お礼」なんですね。

左）お父様がフォローし、協力しながらオルゴールを完成させた参加者ご家族／中央）各テーブルを見回り、子どもの目線に立ってアドバイスをしたり、「上手にできたね！」と励ます山之内先生／右）寄贈のために子どもたちが自作オルゴールを持ち寄ると、山之内先生からお返しに、思いがけない特製オルゴールのプレゼントが！

さまざまな専門分野の先生が、科学の扉を開く

この夏の「サイエンス友の会 科学技術館ファミリー」の教室から

「サイエンス友の会 科学技術館ファミリー」では、さまざまな専門分野で活躍する研究者の方々が、自ら企画し講師も務める教室を開催しています。今夏から初秋にかけても、素晴らしい教室が実現し、子どもたちに科学の世界への扉を開く機会となりました。

サイエンス友の会では、大学で教鞭をとる先生、企業や国公立の研究所で現在研究を進めている方々など、各分野の専門家にも教室をお願いしています。皆様仕事・研究でお忙しい中、オリジナルの実験を計画し、材料を準備してくださいます。応募者からも事前にたくさんの質問が寄せられ、関心の高さがうかがえます。教室では、専門家ならではの詳しくて分かりやすい解説ストーリーと実験に、子どもも大人もその世界に引き込まれ、理解を深めます。我々スタッフもサイエンスの現状と奥深さを学んでいます。これらの教室の中から、今年の夏〜初秋に実施した5つをご紹介します。

「化学発光を解き明かす―ライフサイエンス研究ってなんだろう？」

8月1日（金）　メルク株式会社ライフサイエンス

酵素反応と温度はどんな関係なのだろう。一瞬の反応も見逃さないぞ

世界最古の製薬メーカーのメルク株式会社の研究者の方々から、酵素反応による化学発光のしくみと、実験研究に最も大切な条件の振り方を学びました。鮮やかな発光現象に、参加者からはサイエンスの神秘を感じたという感想もありました。将来の化学者がここから生まれることを願ってやみません。

「セメントで手形をつくろう」

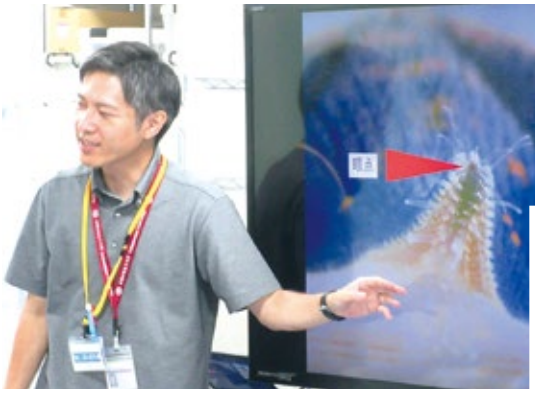
8月6日（水）　一般社団法人セメント協会

手形は成長の記念。心を込めてセメントをこね、工夫を凝らして仕上げました

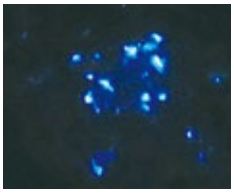
セメントの製造、研究に日々携わる方々から、セメントの化学的性質、素材としての工学的な重要性を学びました。子どもたちは実際にセメントを作り、自分の手形を押し、どのように固まっていくかを観察します。きれいに着色した手形は一生の宝物になりました。橋やビルなどの建物に使われるセメントに、直接触れる貴重な経験ができました。

「ヒトデの観察と海のふか〜い話」「海のほたる？〜ウミホタルを見よう！知ろう！」

7月20日（日）　里 浩彰先生（一般社団法人探究科学研究所／お茶の水女子大学）



「ヒトデの目はここ!」に、みんなびっくり。ヒトデの仲間探しにも挑戦



蛍光青色に光輝くウミホタルの観察を親子で楽しみました

ウミホタル（小１〜４対象）とイトマキヒトデ（小５〜中学生対象）を材料として、海の生き物たちの種類や生態、環境の影響を学びました。ウミホタルが光る様子、ヒトデの体のつくりをじっくり観察し、普段馴染みの少ない生物に触れる喜びも味わいました。自分でも捕まえて観察したいという声が多々聞かれ、探求心も盛り上がりました。

「科学で世界を救え！お薬開発ミッション」

9月14日（日）　医薬化粧品産業労働組合連合会（薬粧連合）

自分たちが薬を作って王様を助けたい！　じっくり考えてミッション完了！

薬粧連合の若手の方々がこの教室用に考案した、薬を開発する工程を学ぶRPG仕立ての教室。先生の分かりやすい解説やヒントをもとに、子どもたちは３つのミッションに挑戦し薬を開発していきました。子どもたちの作った薬は王国に蔓延する病気を解決して、めでたしめでたし。若手研究者ならではの、これまでにないアイデア教室でした。

〈科学技術館運営部　高橋 葉子〉

UNFORGETTABLE SUMMER MEMORIES

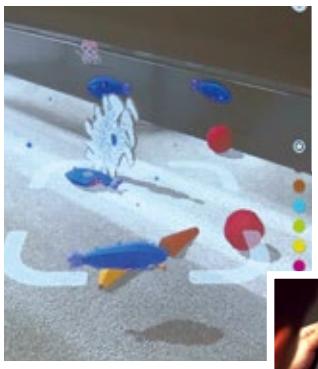
夏の思い出を作る

子どもたちの創造性を育む数々のワークショップも館内で開催。楽しい思い出をたくさん持ち帰っていただきました。

科学技術館で楽しい思い出いっぱい作ったよ！

当財団のイベント「海の科学教室」は今回も大好評！　館内の回廊・G 棟ギャラリーでは夏らしい工作イベントが人気を集めました。

「夏ダー！ なので海の科学教室」

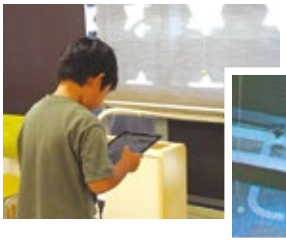


子どもたちが描いた、アメーバのようなシュールな生き物たちが、拡張現実の会場を自由気ままに動き回っていました

天然由来の蜜蝋などを素材とし、衛星写真がとらえた地球の色からなる「海のクレヨン」でカメをお絵描き中

タブレット端末を見ながらテーブルにもぐりこむカメをしゃがみこんで追跡中！

「みんなどう思う？」ペットボトルやレジ袋などの海洋ゴミを直に見たり、深海の水圧で潰れた容器に触ったりして海の環境のことを考えました



ちょっとテトラの仲間にも似た？新幹線 E5 系魚も出現！E5 系魚は会場の窓枠までひらひらと泳いでいき、何度か脱出を試みていました

2025 年 8 月 20 日（水）、海について楽しみながら学ぶ「夏ダー！なので海の科学教室」を科学技術館事務棟 6 階会議室にて開催しました。本イベントは、SDGs の目標の一つ「海の豊かさを守ろう」をテーマに当財団が不定期に開催し、毎回ご好評をいただいているもので、今回は、夏にぴったりのテーマということもあり、小学 1 年生から 4 年生までの多くのお子さんにご参加いただきました。

当日は、海の生き物をテーマにした絵合わせカードゲームを楽しんだほか、「海のクレヨン」を使って海の生き物を描き、その絵をタブレット端末の AR アプリに取り込んで、拡張現実の中で会場内を動き回る生き物を追いかけて遊びました。また、実際に深海から採取されたペットボトルやレジ袋などの海洋プラスチックごみを観察し、海洋ごみ問題についても一緒に考えました。この教室を通じて、子どもたちが海により親しみ、海洋環境問題への関心を深めてくれたら嬉しく思います。〈経営企画室／人財育成部〉

「SDGs サンゴ工作～サンゴについて楽しく学ぶワークショップ」

いとこ同士で協力しながら飾りを制作中。男の子が色のパーツを選び、女の子がそれを容器のフタにきれいに置いていき、息もぴったり！

お二人がお家でも作ってくれた作品の写真を、ご家族様が送ってくださいました。サンゴや貝殻、海色のかけらが見事に配置され、赤いハートのかけらも！美しい海を表現した、世界に一つだけの作品です

夏休み期間中の 7 月 26 日（木）から 8 月 24 日（日）まで、科学技術館 2 階 G 棟で「SDGs サンゴ工作～サンゴについて楽しく学ぶワークショップ」（主催：旅するワークショップ LiKKA）コーナーが設けられ、多くのご家族連れが参加し、沖縄の美ら海をイメージした工作を楽しみました。この工作では、沖縄の海岸に打ち上げられたサンゴや貝殻、琉球ガラスのかけらなどをパーツとして使用し、自然の海を想像しながらキャニスターやオブジェを飾り付けて作品を制作。子どもたちは本物のサンゴや貝殻に触れながら、自由な発想で美しい海の世界を表現していました。

「キャンドル・オルゴール工作」

7 月19 日（土）から8 月31 日（日）までの期間（期間中、一部休みあり）、3 階G 棟にて「キャンドル・オルゴール工作」（運営：株式会社ミュージアムクルー）のコーナーを設け、多くの方々にご参加いただきました。このワークショップでは、キャンドルまたはオルゴールの土台にさまざまなパーツを飾り付けて作品を作ります。通常は週末を中心に開催していますが、夏休み期間中はほぼ連日開催。パーツも、イルカやカメなどの海の生き物、浮き輪やヤシの木など、夏をイメージしたものをご用意して、季節感あふれる工作を存分に楽しんでいただきました。

下）浮き輪やイルカなど夏らしいパーツがいっぱい！

上）「何にしようかな？」。土台やパーツ選びも楽しいひととき

REPORT I

「第 36 回国際生物学オリンピック」「日本生物学オリンピック 2025」

生物学を志す若者たちの絆が未来を創る！

「国際生物学オリンピック」フィリピン大会 ～各国の代表同士が絆を深めた日々

青法被を来た日本代表選手団（左から丸谷周さん、高山歌歩さん、竹之内涼介さん、大島寛生さん）、日本代表・現地バディのエリカさん（中央奥）、白い服のモンゴル代表選手団の皆さん。モンゴル代表選手の一人は、かなり日本語が上手だったそうです。どこで勉強したのかと尋ねると、教科書と「日本のアニメ」で勉強したとのこと。驚きでした！

高山さん（右）とルームメイトのトルコ代表選手。お祈りの時間があったり、持っているお菓子がとても甘かったりと、イスラム文化に触れたそうです。異国の初対面の人と1週間同部屋だったのは国際大会ならではの経験でした

試験終了後に開催されたパーティにて各国代表選手と踊る竹之内さん（中央）。流行しているらしい外国の音楽に合わせて踊りました。振付が分からずにいると、近くの異国の選手が教えてくれたとか

パーティにて、カナダ代表選手と丸谷さん（左）、高山さん（右）。異国の選手にとにかく日本のアニメが大人気だったとか。日本代表4名はカラオケ・ステージで「残酷な天使のテーゼ」を披露し盛り上がりました！

表彰式後に、カザフスタン代表選手と記念撮影する大島さん（右）。国名アルファベット順でお隣だったこともあり、期間中、仲良くさせてもらったそうです

2025 年 7 月 20 日（日）から 27 日（日）まで、フィリピン共和国ケソン市において「第 36 回国際生物学オリンピック」（IBO2025）が開催され、79 カ国・地域から 305 名の生徒が参加しました。日本代表選手4名は、全員銀メダルを受賞しました。

この国際大会では、生物学の知識や実験技術を競うだけでなく、各国の代表選手同士が交流する時間が設けられています。今年は、カラオケやダンスイベントを実施。また、遠足は、首都マニラの市街・旧市街、フィリピン国立自然史博物館などへと出かけました。日本代表選手は、各国の代表選手との交流会を初め、寝食を共にすることで、異国文化への理解を深めました。

代表4名は帰国後、文部科学省を表敬訪問し、文部科学大臣表彰を受けました。

「日本生物学オリンピック2025本選・東京大会」～来年の代表候補が決定！ 研究体験も充実

参加者全員で東京都立大学の「光の塔」を背景に記念撮影

実験試験の様子。生物学オリンピックは比較的女子の参加が多く、今年は出場者の1/4を占めます。また、今年の日本代表候補 12 名は、うち 4 名（1/3）が女子です！

多くの協賛企業様、大学・高等学校等の教員、大会 OB・OG、学生さんの、支援と協力により、大会を運営しています。今年は記念撮影ボードを作成しました

8 月 18 日（月）から 21 日（木）にかけて、東京都立大学南大沢キャンパス（東京都八王子市）において「日本生物学オリンピック 2025 本選・東京大会」が開催されました。1,516 名が参加した事前予選を通過した高校生ら約 60 名が集い、来年の国際大会（IBO2026 リトアニア大会）代表選手の座をかけて奮闘しました。この大会の結果、リトアニア大会の代表候補選手 12 名が決定しました。また、特別賞 16 名、金賞 10 名、銀賞 10 名、銅賞 20 名、敢闘賞 19 名が決定し、各受賞者にメダルなどが授与されました。

その他、今年は「研究体験」イベントを開催。現役研究者と協賛企業の株式会社ニコンが主催する合わせて6領域に分かれ、講義や実習を受けました。体験内容は 10 分程度のプレゼンテーションにまとめ、交流会にて発表を行いました。〈人財育成部　岩間 裕文〉

日本生物学オリンピック 2025 協賛企業・団体

- ●主催：国際生物学オリンピック日本委員会、日本科学技術振興財団
- ●共催：東京都立大学／高等学校文化連盟全国自然科学専門部／科学技術振興機構
- ●特別協賛：東レ
- ●協賛：メルク／味の素／中外製薬／ニコン／ Z 会／ファーウェイ・ジャパン／光バイオ／日本動物学会
- ●協力：はるやま商事／丸善出版／日本発明振興協会
- ●後援：文部科学省／生物科学学会連合

REPORT Ⅱ

青学大・原晋監督も登壇！ 特別教育講演会「子ども主導。『後悔しない進路選択』とは？」開催

急激な時代の変化の中で、子どもの“生きる力”をどう育てる？

7月27日（日）、科学技術館地階サイエンスホールにて、特別教育講演会「子ども主導。『後悔しない進路選択』とは？」（当財団、STEAMS LAB JAPAN株式会社 共催）を開催しました。本講演では、AIの進化、少子化、格差の拡大など、急激に変化する社会の中で、子どもたちに今、何が必要なのかを問い、“生きる力”、“非認知能力”をテーマに、先進的な教育や受験のあり方について、4名の教育界の有識者をお迎えしてお話しいただきました。当日は、教育に強い関心を持たれる多くの方々が参加し、有識者の貴重で有意義なお話に耳を傾けました。この講演内容の一部を、抜粋してご紹介します。

パネルディスカッションでは、登壇者と参加者との質疑応答などもあり、有意義な時間となった。左から、ファシリテーターを務めたSTEAMS LAB JAPAN株式会社執行役員・福島誠司氏、登壇者の鎭目美代子氏、林拓也氏、原晋氏、井上修氏

「スポーツ」が育む『生きる力』とは？～組織づくり 必要な要素と社会の変化

青山学院大学 体育会陸上競技部 監督／地球社会共生学部 教授　原　晋 氏

私は今年で箱根駅伝の指導者として22年目のシーズンを迎えています。最初、チームをつくるにあたり、どのようなチームをつくろうか、と考えました。優秀な高校生をスカウトしてまとめていくのか、あるいは組織で勝負をするのか、どちらかにしようと思ったわけですが、そもそも、当時は箱根駅伝に20数年間出ていないチームで、私自身も箱根駅伝を走ったことも指導したこともなかったので優秀な学生は来てくれませんよね。そこで私は、来てくれた学生に対して「3つの勝利」という定義づけをさせてもらいました。それは、競技に勝った負けたではなく「大学の教育活動の一つである視点を忘れてはならない」「4年間できちんと卒業させ、就職活動をお手伝いする」「5,000mの自己ベストを更新させる」というものを「勝利」と定義づけたんですね。そして90%超の学生がこれを勝ち取り、高校指導者から見た場合、ここに生徒を預けるときちんと教育をしてくれる、という評価となり、優秀な生徒が入ってきて、箱根駅伝で11年間で8度の総合優勝をすることができたわけです。

「組織で勝負する」とき、組織をつくるにあたっての重要事項は何なのかというと、それは「理念の共有」だと思っています。理念の共有なくしてチームはまとまらないという思いで、まずは理念をしっかりとつくり出しました。その理念は「箱根駅伝に勝つため」ではなくて、「箱根駅伝を通じて社会に役立つ人材を育成したいんだ」という思いであり、これは変わらぬ哲学として今でも語り継いでいます。

この理念を高らかに掲げた「行動指針」三か条は、A4用紙1枚にコピーして、毎年1年生に配っています。その内容は、「一、感動を人からもらうのではなく、感動を与えることの出来る人間になろう。」「一、今日のことは今日やろう、明日はまた明日やるべきことがある」「一、人間の能力に大きな差はない。あるとすればそれは熱意の差だ」というもので、これは総論で書いています。具体的にこれをやりなさいということはあえて書いていません。それでも、学生たちがこの理念・行動指針のもとに、今何をしなければいけないのかを、それぞれの立場や能力に応じて考えながら突き進んでいってくれます。

わが陸上部では、目標管理ミーティングを通して、目標とのずれを自ら埋める作業を20年前からやっています。その考え方は「フィードフォワード」です。日本の企業はどちらかといえば「フィードバック」、目標未達のものをダメ出しする文化が長く続いたんですが、本学では、「どうやったらできるの？」という前向きなフィードフォワード方式で取り組んでいます。フィードフォワードは、誤りや欠点などの問題ではなく、未来の解決策に焦点を当てます。その人固有の問題として捉えるのではなく、職場の仲間が互いを助け合って組織の問題として捉えます。だから認められる、守られる。「お前のせいで負けたんだ」ではなく、「もっと各区間で10秒20秒頑張れなかったの」という思考で話し合いをして解決していくということなんですね。（講演より一部抜粋）

子どもの自主性を伸ばす「子どもにフタをしない子育て」とは？

アクトインディ株式会社 いこーよ 子どもの未来と生きる力研究所 所長　鎭目（しずめ） 美代子 氏

子どもたちの好奇心を伸ばす動物園・水族館の見学の仕方は何だと思いますか？ 選択肢は３つ。①プロである動物園や水族館がおすすめの「順路」に従ってまわる。②展示されている動物や魚をくまなく一緒に見る。③子どもが展示と関係ない地面のアリばかり見ていてもそのまま見守る。――この正解は、③になります。なぜかというと、子どもがその時に見たいものを見ることこそ、探究心や好奇心を伸ばすからです。

子どもが集中・没頭して何かを見ているときは、実は科学者と同じ頭の状態になっていると言われています。科学者は最初に実験や観察をするときに仮説を立て、実験や観察を行い、仮説と結果が違っていたらまた新しい仮説を立てる、ということを繰り返します。子どもがアリを見ているとき、まさにこうした科学者と同じ状態になっているわけです。ですから、子どもが何かを見たいと思っていたら、親はそれを止めるのではなく、見守って応援してあげることです。そうすることで、子どもは安心して自分の好きなことに没頭し、安心して失敗ができ、成長できます。

「いこーよ」では子どもの「生きる力（非認知能力）」を、「自知力（自分を知る力）」「自効力（自分で決断し行動できる力）」「他尊力（他人を尊重できる力）」の３つに分けて軸にしています。ここでまず大切なのは「自知力」です。自分は何に関心があり、何をやりたいのかが分かる「自分を知る力」にフタをせず、子どもを潰してしまわないことが大事なのです。

子どもが親の希望と違う進路を選びたいと言ってきたら、それは子育てが成功している証拠です。なぜなら、子どもが自分が好きなものを知り、自分で決断し、自分の人生を自分の頭と手足で歩み始め、それを言える良好な親子関係が築けているということだからです。（講演より一部抜粋）

「生きる力とは？」　大学の現場から

青山学院大学 地球社会共生学部 教授　林　拓也 氏

昨今、大学入試改革が広がりをみせ、秋入試が非常に拡大しています。その多くは、一つは、高校の学校長が承認する学校推薦型選抜、もう一つがかつて AO 入試と言われた総合型選抜という入試形態です。このような方式で入学する学生が年々増えてきていますし、大学自体もこの形態による秋入試を積極化する流れになってきています。

それはなぜなのか。難関大学の場合は、「多様な学生の確保」がその大きな理由です。大学側も、金太郎飴みたいな、どこから切っても同じような学生ではなくて、面白い学生が必要だというふうに、最近強く認識してきたということなんですね。

「多様な学生」とは、具体的に言えば、中高時代に教室での学び以外で、いろんなことにチャレンジした学生ということです。例えばスポーツ活動。スポーツは、うまくいくときもあるけれど、失敗するときの方が多いわけです。そこで成功や挫折など、どれだけ多くの貴重な経験を繰り返してきたかが重要です。塾や自習室で勉強ばかりしているということではなくて、教室という空間から外に出ていって、受験勉強に関係なさそうなことでも果敢にチャレンジしている人、それが「多様な学生」であるというふうに思っています。このように、部活動、ボランティアや課外活動、あるいは高校での探求活動などの経験を通じて得られる力が「非認知能力」です。実はこれこそ、社会に出てから非常に大事な能力になってくるものではないかと思います。（講演より一部抜粋）

子ども主導。後悔しない進路選択とは？

教育アナリスト（茗渓学園校長補佐・元日能研入試情報室室長）　井上　修 氏

2025 年首都圏の一都三県での中学入試状況は、受験者数約 62,000 名、受験率 21.5% と高い状態をキープしています（日能研推計）。今後も、私学熱・中学受験熱は続くのではないでしょうか。ただし、価値観の変容が急速に進んでいます。また、教育における「バランス感覚」のニーズの高まりというものを強く感じています。

今、学校には、子どもが自立して学べるかどうかという「自立型」が求められています。また、インタラクティブ（相互）にやり取りできるかどうかも大きな要素です。さらには、勉強と同時にクラブや行事も大事です。結果として、「肌触りの良い私学」、ずっといて楽しい学校の人気が高い状態です。また、大学に対する評価も変わってきています。近年は、大学を考えるときに、特定の大学に行くことより「学部学科」を優先して考える時代が急速に来ようとしています。そして、急速に国際化が加速しています。海外大学との競合が増えており、日本の学生の海外大学志向も高まっています。高大連携も進展しており、大学の見える化が進み、人気大学の相対化も進んでいます。

一番大きな変化としては、企業・組織や研究集団で「上意下達」が終わろうとしています。代わりに、「グループワーク型・プロジェクト型」にどんどんなっている。なぜかというと、世界の変化のスピードと科学技術の進化が速いため、柔軟に対応するためには上意下達型では対応できず、グループ型へと変化しているわけです。グループの中では、自分の得意分野でどう貢献できたかが非常に大事になってきます。そのため、「どの大学を出たか」よりも、主体的に「何を学んできたのか」が大事になります。また、人の話をしっかり聞けるかどうか、肯定的に人と接することができるか、視点が多様かどうか、人と共に働けるかどうか、じっくり考え、やりとげることができるかどうか。こうした非認知能力が大事になってきます。（講演より一部抜粋）

組み合わせ自由！男の子も夢中でコーンを合体させていました

新展示「くるくるコーン Big」、カプセルトイ「不可能パズル」、復活展示「ゾートロープ」

回る？外せる？動き出す？ 不思議な世界を体感しよう！

この夏から秋にかけて、“ 不思議な世界 ” を体感できる新展示やカプセルトイが科学技術館に登場しました。ぜひ直に体験して、その世界で大いに遊んでください。

■くるくるコーン Big（2階「ものづくりの部屋」）

当館オリジナル・カプセルトイ「くるくるコーン」を、団体見学のお客様などにも体験いただけるよう、大型の展示物にしました。展示物にするにあたっては、円錐型状、砂時計型、四角錐台型の 3 パターンの形状を設計しました。形状はそれぞれ異なりますが、例えば砂時計型のパズルに円錐型の内側を組み合わせることも可能で、一見入らないように見えても、すべてうまく組み合わせることができます。その仕組みは簡単で、ネジのようならせん状のカットにあります。らせんの傾斜角度が急なため、1 つのパーツに別のパーツを乗せると自重でくるくると回って入っていきます。お客様も、くるくる回る動きや、予想外の組み合わせが可能なことに驚かれています。

■不可能パズル（2階「ものづくりの部屋」）

カプセルトイ･コーナーに登場したキューブ型の「不可能パズル」は、上下 2 つのパーツで構成されており、表面には「科学技術館」の文字とロゴマークが入っています。一見すると、どの方向から見ても2色のパーツは外せそうに見えないのですが、実はある方法で取り外すことが可能です。その仕組みは……購入してからのお楽しみ！ お友達に見せて「どうやって外すか?」を一緒に考えてもらうのも楽しい体験になることでしょう。

Impossibole Puzzle

シンプルだけど、奥が深い！「不可能パズル」

Zoetrope

筒を回して、スリットから中を覗いてみると……！元祖のアニメーションを体験できる展示です

■ゾートロープ（5 階「ワークス」）

この秋、展示「ゾートロープ」を「ワークス」展示室にて公開しました。かつて館内に設置されていた展示を復活させたもので、新たに板金加工を施し、3D プリンターで人型と馬型の、少しずつ形状が変化していくフィギュアを製作し、2 台の円筒にそれぞれ取り付けて修復しました。ゾートロープは「回転のぞき絵」とも呼ばれる装置で、円筒形の側面に縦に並んだスリットが入っており、円筒を回して真横から見ると、スリットを通して円筒内のフィギュアがアニメーションのように動いて見え、実に不思議な光景が広がります。　〈科学技術館運営部　横山 力／経営企画室〉

栃木県子ども総合科学館 “コジマ子どもサイエンスパーク” リニューアルオープン！

この秋にリニューアル！ 当財団・当館が展示総監修を担当しました

展示場 1 階・2 階のフロアマップの左下に「展示総監修」として、日本科学技術振興財団・科学技術館の名前を入れていただいた

リニューアルオープン式典時の施設外観。屋外のひろばの改修やロケットの再塗装なども行われた

「栃木県子ども総合科学館」（栃木県宇都宮市）は、名前通りに科学館、また児童厚生施設でもある、栃木県の施設です。2024 年 1 月から 2025 年 9 月までの屋内施設の長期休館を経て、2025 年 10 月 3 日（金）に全面リニューアルオープンを迎えました。

日本科学技術振興財団・科学技術館では、この大規模改修工事に、館内展示場の監修という立場で協力しました。科学の基本となる原理原則を取り上げた「ベーシック」、広大な宇宙からの地球をテーマとした「宇宙」・「地球」、その中で生活する人や科学技術を紹介する「生命」、くらしを支える科学技術やものづくりをテーマにした「くらし」、地球環境のメカニズムと環境問題を取り上げた「環境」の各ゾーンのほぼすべての展示物や解説について、科学技術館の知見を基に約 1 年半にわたってコメントなどを差し上げたものです。

そのご縁で一足早く 10 月 1 日（水）のリニューアルオープン記念式典にもお招きいただきました。フロア案内図に「展示総監修」として当財団・館の名前があり、さまざまなゾーンの完成形とともに楽しみました。同日からネーミングライツにより愛称が「コジマ子どもサイエンスパーク」となった同施設のますますの発展をお祈り申し上げます。

原稿協力：栃木県 生活文化スポーツ部 県民協働推進課

〈科学技術館運営部　松浦　匡〉

JSF Bulletin Board ／ JSF 掲示板

ご支援・寄付のお願い（一般の個人様向け）

公益財団法人日本科学技術振興財団は、科学技術館の運営をはじめ、理科好きの子どもたちを増やし、理系を志す青少年を育成する活動を通じて、社会への貢献に努めております。これらの活動を維持・発展させていくために、この度、皆様からのご寄付の受け付けを始めました。

子どもたちの理科離れは、我が国が抱える大きな社会的課題となっています。その課題を解決するための方策の一つとして、当財団は、子どもたちに科学技術の不思議や面白さを伝えるとともに、科学技術が産業や経済の発展にもつながり社会に役立つことを、さまざまな取り組みを通して理解してもらう活動を行っております。こうした活動を通じて、明日を担う研究者や技術者が育ち、我が国の科学技術の礎を築いていくことが、当財団の使命であると考えております。

私たちの活動趣旨にご賛同いただき、日本の将来を支える取り組みに対し、個人の皆様からのご寄付を賜りますようお願い申し上げます。

〈経営企画室〉

日本科学技術振興財団ウェブサイト「寄付のお願い」ページ
https://www2.jsf.or.jp/support/donation/
同ページにて、詳細・お申込み方法をご覧いただけます。

特定事業への寄付・協賛のお願い（企業・団体様、一般の個人様向け）

https://www2.jsf.or.jp/support/guide/#support04

当財団は、科学技術系人材の育成や科学技術の普及・啓発を目的とし、「青少年のための科学の祭典」や「日本生物学オリンピック」など特定事業を行っております。各事業への寄付や協賛も募っておりますので、ぜひご協力をお願い申し上げます。

賛助会「北の丸科学技術振興会」入会のご案内

皆様のご支援とご協力に感謝いたします。

公益財団法人日本科学技術振興財団では、当財団の賛助会「北の丸科学技術振興会」にて会員の方を募集しております。

将来にわたって日本が科学技術先進国であり続けるために、当財団は、次代を担う理工系人材の育成を主眼に置き、子どもたちの科学技術への興味・関心を高めるためのさまざまな活動を行っております。こうした活動を維持・発展させるため、当財団は 2011 年 4 月、「北の丸科学技術振興会」を設立し、企業、団体、個人様に、活動資金などのご支援と協力をお願いしております。当財団の趣旨にご賛同いただき、ぜひ当会にご入会いただければ幸いです。

●詳細は下記 URL からご覧いただけます。
日本科学技術振興財団ウェブサイト内
https://www2.jsf.or.jp/support/membership/

〈経営企画室〉

賛助会員企業・団体名　2025 年 10 月 1 日現在（五十音順）

アサヒ飲料株式会社／旭化成株式会社／株式会社伊藤園／江崎グリコ株式会社／NEC ネッツエスアイ株式会社／株式会社エヌ・ティー・エス／NTT 株式会社／株式会社旺文社／一般財団法人大阪科学技術センター／花王株式会社／学校法人科学技術学園／公益財団法人科学技術広報財団／公益社団法人科学技術国際交流センター／鹿島建設株式会社／関西電力株式会社／株式会社関電工／キヤノン株式会社／協和キリン株式会社／クミアイ化学工業株式会社／コカ･コーラボトラーズジャパン株式会社／公益財団法人産業雇用安定センター／サントリービバレッジソリューション株式会社／ＪＦＥスチール株式会社／潮見サービス株式会社／株式会社島津製作所／STEAMS LAB JAPAN 株式会社／株式会社 SUBARU／住友化学株式会社／公益財団法人全日本科学技術協会／損害保険ジャパン株式会社／株式会社第一工芸社／大同特殊鋼株式会社／中外製薬株式会社／ＴＨＫ株式会社／東京応化工業株式会社／東京キリンビバレッジサービス株式会社／株式会社東芝／東レ株式会社／日本化薬株式会社／日本精工株式会社／公益財団法人日本海洋科学振興財団／一般財団法人日本鯨類研究所／日本製鉄株式会社／日本生命保険相互会社／一般社団法人日本鉄鋼連盟／日本電子株式会社／一般財団法人バイオインダストリー協会／一般財団法人光産業技術振興協会／日立建機株式会社／株式会社日立製作所／三井化学株式会社／三井不動産株式会社／三菱重工業株式会社／三菱商事株式会社／リコージャパン株式会社／理想科学工業株式会社／一般財団法人リモート・センシング技術センター／株式会社レゾナック・ホールディングス

日本科学技術振興財団・科学技術館インフォメーション

当財団・科学技術館の情報は以下の二次元コードよりアクセスし、ご覧いただけます。

日本科学技術振興財団　科学技術館　JSF TODAY　メールマガジン　X　Instagram

編集後記

AI 時代が到来しています。デジタル化が進化する社会の中で、私たちの「現実」の捉え方や生き方そのものも変容しつつあります。しかし、こうした技術の恩恵を受ける時代だからこそ、私たちが五感をもって生きる生身の人間なのだということも、また再認識させられます。この夏、科学技術館には多くの子どもたちとそのご家族らが集い、直にモノに触れ、人の心に触れ、その瞳を輝かせている場面をたくさん目にしました。こうした“温度のある体験”のなかにこそ、深い気づきと、ネット上にも存在しない未知の発見があるような気がしてなりません。〈永〉

※本誌記載の製品名・商品名は各企業の登録商標・商標です。本文中では「TM」「®」などの表示は原則的には明記しておりません。

なにこれ!? 科学技術館事典

FUNNY ENCYCLOPEDIA OF SCIENCE MUSEUM

凡例　●本事典は、科学技術館内の展示ならびに演示について解説したものです。●本文は、かな表記【名称】〔英語表記〕（ジャンル・展示室名等）説明文、の順に配列しています。●ご紹介している展示物やプログラムは、科学技術館にお越しいただき、実際に体験し、存分に楽しんでいただくことをお勧めします。

さいえんすほーるのなぞ【サイエンスホールの謎】

〔Mysteries of the Science Hall〕（名・施設）

① 昭和の佇まいを多く残し、ご高齢の方々は「昔の映画館のよう」と懐かしさを感じることも。近年はアニメ・声優界隈のイベントでも賑わい「オタクの聖地」と呼ばれることも多い。昭和レトロと令和の萌え最前線が混在する不思議な場所。

② **いろはの座席**　今ではほとんど見ることのない折り畳み式のテーブルが背もたれに付いた昭和を感じさせる座席は列順が「いろは～」である。「色は匂へど散りぬるを我が世誰ぞ常ならむ」── 色鮮やかに咲き誇る花もいずれは散ると歌う「いろは」歌は諸行無常を表し、ステージの華やかさをその儚さをもふくめ静かに眺めているかのようである。

③ **幻の受付カウンター**　ホール入口の不自然な位置に存在するこの大理石のカウンターは 1964 年の科学技術館開館から 10 年ほど経過したころ、防火扉の設置が義務付けられたことにより大部分が隠れてしまった。それから半世紀、撤去されることもなくそこに在り続けている。視界には入っても曖昧な記憶の中に存在している幻のようでもある。

④ **不自然な壁の穴**　ステージ横の壁のレンガタイルは一つだけきれいに欠けている。緞帳が閉まった状態でステージから客席の様子を確認するために使われていた、開館当初からある覗き穴である。客席を覗く時、客席もまたこちらを覗いている？

〈田〉

いろはの座席

幻の受付カウンター

不自然な壁の穴

サイエンスホール（名・施設／地下2階）

科学技術館の地階にある、410 名を収容できる本格的な劇場型ホールです。レトロな内装が醸し出す独特の雰囲気をもち、講演会やセミナー、シンポジウムをはじめ、各種発表会、トークショー、アニメ・声優イベントなどにも最適です。

お問合せ：03-3212-8485

https://event-jsf.jp/science_hall

科学技術館のご利用案内

鉄道　東京メトロ東西線　竹橋駅下車（1b 出口）徒歩約 550m

東京メトロ東西線・半蔵門線、都営地下鉄新宿線　九段下駅下車（2 番出口）徒歩約 800m

自動車　首都高速都心環状線（外回り）代官町出口からすぐ

首都高速都心環状線（内回り）北の丸出口からすぐ

※科学技術館には専用駐車場はございません。北の丸公園内の有料駐車場等をご利用ください。

開館時間　開館 9 時 30 分、閉館 16 時 50 分（入館は 16 時まで）

休館日　一部の水曜日（休日の場合は次の平日）
※ただし、学校の長期休みなどの水曜日は開館します。
年末年始（12 月 28 日～1 月 3 日）

入館料金

	大人	中学生・高校生	子供（4歳以上）
個人	950 円	600 円	500 円
団体	710 円	450 円	350 円

※ 65 歳以上の高齢者の方や障害者の方などの特別割引もございますので、証明書や手帳等をチケットカウンターにてご呈示ください。

所在地　東京都千代田区北の丸公園 2 番 1 号

WEB　https://www.jsf.or.jp/

TEL　03-3212-8544

科学技術館ウェブサイト

JSF TODAY 第178 号
発行日　2025 年10 月31 日

企画・編集・発行：公益財団法人日本科学技術振興財団 経営企画室
所在地：102-0091　東京都千代田区北の丸公園 2 番 1 号
TEL：03-3212-8584　　FAX：03-3212-1306
WEB：https://www2.jsf.or.jp/
JSF TODAY WEB：https://www2.jsf.or.jp/publications/magazine/